南部中ホームページ （http://www.nanbu-chu.ed.jp/）はこちらから →

南部町立南部中学校　学校だより　第24号

チーム南部中

令和５年 3月24日（金）
校長　望 月 和 彦

多くの成果をあげた令和４年度でした

いつもより暖かい陽気に校庭の東の桜はすでに八分咲きとなりました。春本番の本日，令和４年度の修了式を行いました。この一年間を振り返ると，今年度も教育活動は新型コロナウイルスの影響を受け，１学期の部活動の停止，２学期には学年閉鎖や学級閉鎖，授業の打ち切りなどの措置を取ったこともありました。しかし，新型コロナが拡大してから３年目ということもあり，可能な感染症対策をとりながら，基本的には生徒たちの学びを止めない方向で行事を含めた教育活動を進めてきました。本校で感染が爆発的に広がらなかったのは，生徒や教職員が注意して感染症対策に取り組んだからだけでなく，保護者の方々やご家族の方々が検温や体調管理をきちんとしていただき，適切に対応していただいたお陰でもあります。ありがとうございました。コロナ禍だからこそ進んだことが，ICT の活用です。授業の中で自分の考えをタブレット（Chromebook）に入力して，他者と考えを交流したり，集会や会議をオンラインで実施したりすることも度々行われました。コロナに感染したり，濃厚接触者になったりして自宅療養や自宅待機をした生徒には，体調さえ良ければタブレットを届けて，授業を視聴してもらうこともできました。昨年９月に通知でお知らせしたとおり，新年度の４月からは，家庭への持ち帰りを本格的に実施し，宿題や家庭学習等でもタブレットを活用していきます。生徒たちには，家庭で利用する際のきまりを守りながら，学習に役立ててもらいたいと思います。

令和４年度の授業日数は１年生が 201 日，２年生は 203 日，卒業した３年生は 194 日でした。この一年間，生徒たちは授業に前向きに取り組み，様々な行事に向けても学級，学年，全校で協力しながら活動することができました。授業や様々な活動の中で，グループトーク，フリートーク，意見の交流会などが活発に行われるようになり，生徒と生徒の関わりが，学級の中で，学年の中で，学年を越えて全校で，広まり深まっていったように思います。「生徒同士の関わりを大切にする」という新しい南部中文化の土台ができたことが今年度の成果としてあげられます。第 12 回輝城祭や音楽発表会，３年生を送る会などの生徒主体の行事の成功，選手権，総体，新人戦の教育内３大会で県２位となり関東大会出場を果たした男子バレー部を筆頭に，各部の地区大会や県大会，コンクール等での活躍，有終の美を飾った男女バスケ部のがんばり，地域に貢献する活動として生徒による自主防災組織を編成できたこと，様々な文化面での受賞など，たくさんの成果を挙げた令和４年度でした。一方で，個々の生徒や集団には学力面や生活面での課題があり，より良い授業づくりやすべての生徒が安心して自己有用感を感じられる学校づくりなど，学校としてさらに改善していかなければならない課題もあります。来年度も「気づき・考え・行動そして感動」の実践理念のもと，すべての生徒が楽しく生活でき，生きていくために必要な力を身につけられる学校，生徒はもちろん保護者や地域の方々からも信頼される学校，山梨県の最南端にキラリと輝く学校を目指して精一杯取り組んでいきたいと思います。

１・２学年の授業参観＆学年ＰＴＡ

今年度最後の授業参観と学年ＰＴＡを行いました。年度当初は 16 日に１・２学年同時に実施する予定でしたが，通常教室に多数の保護者に入っていただくことは感染症対策を考えると危険であると考え，学年ごと２日間に分けて，ランチルームと蒙軒ホールを使っての授業を見てもらうことにしました。

16 日には，２学年の道徳の授業を見ていただきました。Ａ・Ｂ組とも同じ教材を使った授業でし

た。林佐知子さんの詩「いのちの音」と，出産を撮影するフォトグラファー繁延あづささんの文章「『生きている』と感じるとき」を通して，「生きていることの尊さ」について考える内容でした。大人でもなかなか難しい問いに，生徒たちは個人で真剣に考え，友だちと考えを交流することを通して，より広い視点から考え，自分の考えを深めていました。「命はかけがいのないものであること」「生きているのは当たり前ではないこと」「自分の命も他人の命も，すべての生き物の命も大切にしたいこと」など多くの気づきと学びがありました。

17 日には，１年生の道徳の授業を見ていただきました。１Ａの教材は県立美術館にある「落ち穂拾い」で有名な画家ミレーと友人の画家ルソーにまつわる「一番高い値段の絵」という物語です。生活に困窮していたミレーの絵を，他人を装って高い値で買って家で大切に飾っていたルソーの気持ち，その絵を見つけて「この絵は何と幸せなのだろう」と感じたミレーの気持ちから，「真の友達」「真の友情」について，友だちと意見交換しながら考えを深めていました。１Ｂの教材は「銀色のシャープペンシル」という読み物です。友だちのシャープペンシルを拾って自分のものにしてしまったことを言い出せなかった主人公の姿を通して，「心の弱さを乗り越えさせるものとは何か」「より良く生きることの喜び」について，生徒たちは自分自身の経験を踏まえながら考えていました。

２日間とも授業参観の後には学年ＰＴＡが行われました。学年主任や学級担任が保護者の方々に，１年間の教育活動や生徒たちの学校生活の様子を伝え，学年会計の報告，来年度の向けての予定などについて説明させていただきました。保護者の皆様には，年度末のお忙しい中ご出席いただき，ありがとうございました。

身延高校からのサポート「中高連携アシスト授業」

３月 16 日，今年度の最後の「アシスト授業」が行われました。アシスト授業は，連携型中高一貫教育校の事業の１つで，学力の向上を目指して，４月から 11 月までは３年生の数学の授業に，12 月から３月までは２年生の数学の授業に，身延高校の先生が学習支援に入ってくれる取り組みです。２年Ａ組では，「桜の名所近くにあるコンビニのスナック菓子の売り上げが，桜の開花前と花の見頃の時期，平日と休日を比べるとどのように違うか，売り上げのデータをもとに調べてみよう」という課題に取り組んでいました。売り上げの最小値と最大値，第１四分位数，第２四分位数，第３四分位数，四分位範囲を調べた後で，「箱ひげ図」（データの分布を把握するために，データを可視化するグラフの１つ）を作成していました。難しい問題で，生徒たちは個々で考えた後で，友だちとも相談して考えていましたが，正解になかなかたどりつけない生徒もいました。本校では，数学の授業はすべての TT（ティームティーチング，複数教員による指導）で行っていますが，アシスト授業のある火曜日と木曜日はさらに身延高校の遠藤佳宏先生が加わり，３人で学習のサポートを行っています。遠藤先生は，高校の数学への接続を意識したヒントを与えながら，生徒をサポートしてくれました。一年間お世話になりました。ありがとうございました。

「いじめを考える集会」

３月 22 日（水），生徒会主催の「いじめを考える集会」が体育館で行われました。最初に生徒会執行部から，この会のねらい，いじめの現状や過去に起きたいじめ事件の概要などの説明がありました。そして，「どんな行為がいじめにあたるのか」「いじめだと感じることを見たらどうすれば良いか」「いじめをなくすためにはどうしたらよいか」を一人一人に考えさせたあと，フリートークやグループトークで意見の交流を行いました。１・２年生がみんなで自分の考えを伝え合うことを通して，「いじめをしない」「いじめをゆるさない」気持ちを高めることができました。